

E-3 住宅の商取に関する研究 (その 7-1974年住宅産業の住宅の傾向について)
静岡英和女学院短大 前原匡子

地価と資材の高騰で最近の住宅の入手難は戦後最高に達している。1970年末日本経済成長の新しい主役として急激な進出をとげた住宅産業も低滞し、1974年に入り金融引締政策、需要者の激減等により、民間マンション及建売住宅も大半売れ残る現状となった。このような政治、経済、社会状況の下で住宅産業が曲り角は来ており、従ってここには本小論(その2~その6)で報告した1970年~1972年の住宅産業に理かれた住宅とかなり大巾な変化がみられたのをご、にその調査結果と報告する。

調査対象は1974年4月以後に開催、開設された住宅展のものに限った。(1)才三回東京国際グッドリビングレゾー(マイホームと住宅産業展: 於4/26~5/6日東京国際見本市会場)に展示された一般モデル住宅11社(木質系、鉄骨系プレハブ及在来工法ハウス)
(2)大阪国際見本市(於4/23~5/6日大阪国際見本市会場)に展示されたプレハブ住宅3社
(3)ABCハウジング展示場(4/27開設大阪大淀プラザ)の住宅9社 (4)春のハウジングフェア(於3/21~4/2日 日経国際カポセルセンター)の住宅6社等について①居住面積 ②商取 ③工法 ④外観 ⑤住宅価格等について発表時スライド、表で示す。本年度は特に新しい技術開発されたものは少なく従来の画一的、機能主義重視の住宅からうるおいのある手づくりの住宅、暮らしやすい商取、外観も和風、瓦屋根等が多くみられたのが特徴で今後徹底的なユニット化限定プランプレハブ住宅と特殊化高価格な現場工程の多い非プレハブ住宅の二種の方向が確定的であろう。

※住宅の商取に関する研究(No.2~No.6)昭和45年5月~昭和47年10月日本家政学会総会講演要旨(前原)